

# 子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

新潟県防災キャンプ推進事業  
(自然の家で防災キャンプ! ~避難生活サポートプログラム~)

新潟県

## 【事業のポイント】

○県立青少年教育施設における避難所生活を想定した防災キャンプの実施

○地域を基盤とした様々な団体・関係者と連携した体験的防災学習プログラムの実施



【救命救急体験】

## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

新潟県においては、度重なる地震や豪雨による大きな被害を受けている。そのため、市町村においては、災害対策ガイドブックや防災マップの作成、学校や地域コミュニティによる防災訓練等が行われているが、これらを日常生活や災害時に生かすことや、災害時に学校と地域が連携して行動することが求められている。

本事業は、平成24年度より県内の市町村に再委託し、学校を避難所と想定して学校区の児童及び保護者、地域住民、関係機関の連携した防災キャンプを実施するとともに、その成果を県内市町村や学校等に広く周知してきた。また平成26年度より、県立青少年教育施設における避難所生活を想定した防災キャンプに取り組み、実施したプログラムの周知とともに防災意識の啓発と体験活動の促進を図っている。

### (2) ねらい

地域の自然体験・野外活動指導者等の人的資源や青少年教育施設(県少年自然の家)の資源を生かし、避難生活が長期化した場合に備えたプライバシー保護や心のケアなども組み入れた防災キャンプを実施する。

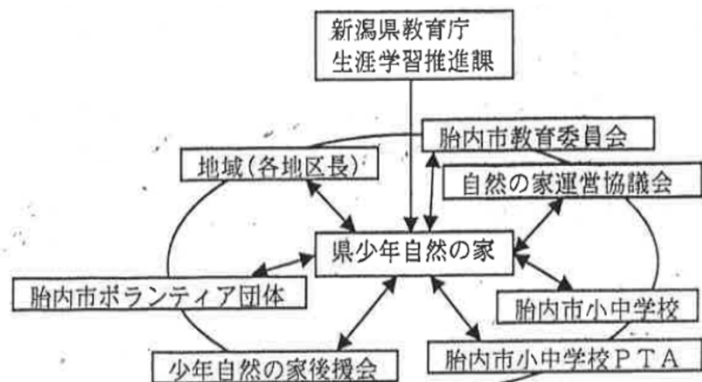
また、少年自然の家を地域の体験活動におけるプラットフォームとして位置づけ、施設が所在する胎内市の関係機関と連携して組織のネットワーク化を図るとともに、地域住民等の参画を得ながら実施する体制を整備する。

## 2. 実施概要

### (1) 実施主体

#### <構成メンバー一覧>

- 胎内市生涯学習課
- 胎内市乙地区 区長
- 胎内市桃崎浜地区 区長
- 胎内市荒井浜地区 区長
- たいない自然学校 代表
- 胎内市小中学校 校長
- " " P T A 会長
- 自然の家所長
- 自然の家後援会
- 自然の家運営協議会



自然の家を中心とした《地域プラットフォーム》

(2)開催実績

月 日	内 容
11月14日～15日	第1回 自然の家で防災キャンプ（県少年自然の家）
12月12日～13日	第2回 自然の家で防災キャンプ（県少年自然の家）

(3) 推進月間の設定

特に設定しなかったが、10月23日は「新潟県中越地震」の発生日であり、この時期に防災キャンプの実施を意識している。

(4) 事例の収集と発信

①事例の収集

【第1回自然の家で防災キャンプ！】

○期日 平成27年11月14日(土)～11月15日(日)

○会場 新潟県少年自然の家

○プログラム

・1日目(11月14日)

施設見学（新潟県中越地震被災地 おぢや震災ミュージアムそなえ館 ほか）

プライバシー確保のための工夫（講義、段ボールハウスの作成）

安全・安心のために必要なこと（講義、応急処置、ロープワーク体験）

ワークショップ(レクリエーション)

段ボールハウスで就寝

・2日目(11月15日)

自炊体験（もしものときの調理法を体験）

ワークショップ（読み聞かせ…ボランティアによる講義、読み聞かせ体験）

ワークショップ（レクリエーション）

【第2回自然の家で防災キャンプ！】

○期日 平成27年12月12日(土)～12月13日(日)

○会場 新潟県少年自然の家

○プログラム

・1日目(12月12日)

プライバシー確保のための工夫(講義、段ボールハウスの作成)

自炊体験(昼食:震災時の食について/夕食:コンロを使った炊飯)

起震車体験

安全・安心のために必要なこと(講義、応急処置、ロープワーク体験)

段ボールハウスで就寝

・2日目(12月13日)

ワークショップ(読み聞かせ…ボランティアによる講義、読み聞かせ体験)

自炊体験(もしものときの調理法を体験)

ワークショップ(レクリエーション)



【段ボールハウスづくり】



【読み聞かせ体験】

## ②事例の周知、情報発信

- ・新潟県ホームページにおいて事業内容及び事業成果に関するページを作成
- ・胎内市内および近隣市町村に事業内容を紹介
- ・BSNキッズプロジェクト(BSN新潟放送のテレビ・ラジオ放送、イベントを通じた子育て支援事業)を活用した広報
- ・にいがた生涯学習県民フォーラム(10月30日～31日)において事業内容をパネルで紹介

## (5)意見交換の場の設定

実行委員会や運営協議会において、少年自然の家における体験活動(防災キャンプを含める)の実施状況や協力体制について意見交換を行った。

## (6)新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

県では、少年自然の家の建てかえを検討しており、防災キャンプを含めた新施設における体験活動事業について、地域との連携を踏まえながら検討していく。

## 3. 成果と課題

### (1)事業成果

- 今年度は少年自然の家を中心として、地元胎内市の諸機関や自然の家の運営支援団体と連携しながら、災害時の対応や避難所生活の健全な過ごし方等の知識を持つ人材の育成に向けたプログラムを組むことができた。
- 自然の家における避難所体験をより広い地域からの参加を認めた。今回は新潟市内の児童や、防災ボランティアを学ぶために新潟大学の留学生が参加し、多様な人々がいる中での避難所体験を行うことができた。
- 第1回は、新潟県中越地震の被災地に直接赴き、また第2回では起震車体験を行った。これらの体験を通じて、自然災害の恐ろしさを学ぶことができ、参加者の防災に対する意識をより高めることができた。

### 〈アンケートから〉

- ・(妙見メモリアルパークの見学)現場を見ていっそう災害の恐ろしさが増した。
- ・(段ボールハウス)意外と暖かい。思った以上に大変な作業だった。
- ・(食事をつくるとき)ガスコンロは便利で、もしもの時に役立つことがわかった。
- ・災害を考えるよい機会になった。

### (2)事業運営上の課題

学校や公民館等での避難所設営や運営についてより深く学ぶためには、防災NPO等、専門的な立場の指導者との連携が必要になると考える。今後は、これまで実施した自然の家での防災キャンププログラムを再検討し、少年自然の家ならではの防災キャンプとして実施できるような工夫が必要である。また、指導者やリーダーを養成することも視野に入れ、地域ぐるみで防災教育を実施するための支援ができるよう、地域の協力を得ながら検討していく必要がある。

### (3)事業成果の普及啓発の課題

県ホームページを活用した周知、学校や公民館等への事業成果の周知が必要となる。

## 4. 団体プロフィール

新潟県教育庁生涯学習推進課  
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

電話 025-280-5617  
FAX 025-284-9396  
E-mail ngt500060@pref.niigata.lg.jp



【起震車体験】